

環境決定論を越える地理授業
～地理学5大テーマと経済の視点～

立命館大学
河原 和之

2024年8月13日

今日のお話し

- 1 行壽実践コメント
- 2 地理学5大テーマを意識した事例
熊本平野と八代平野～熊本の農業～
- 3 経済の視点を加味した地理授業
アルゼンチンの経済低落
～「母を訪ねて三千里」を通して～
- 4 地理的考察では困難な事象
～東京一極集中～

「環境決定論」から「環境可能論」へ
～自然と共存しつつ制約を乗り越える人間～
人は「自然環境」の「制約」をうけるが、それを乗り越え「改変」という地理的見方考え方を基調に、興味ある具体例が多く紹介されている

「北海道バナナ」—意外性から寒冷というマイナスの要因をプラスに転化する人の営みである。価格は3000円越える

「廃校利用農業」—空き家などが社会問題になり、SDGsとの関連からも考察している

「さくらんぼ狩り」—子供たちが生活で経験していることから「効率」という観点から、その「意味」がわかり、見方考え方と生活が結びつく教材

廃棄キャベツは市場価格OR独占価格 緊急需給調整

- 野菜の安定供給と生産者保護という名目で1980年にはじまった廃棄処分
- 生産農家が農協を通して野菜の廃棄を農水省に届け出、廃棄が実行された量にあわせて交付金が支払われる
- 約1万トンだと、1kgあたり27円が支払われる。交付金は2億を超えることもある。価格調整を農協を通じて農家が行うということでは独占企業の行動様式と同じでは？

地理学習と経済の関係

- 地理学習には「地理固有」の見方考え方や活用方法があり、経済的視点を加味することで深まる授業でなければならない
- 「人間と自然との相互依存体制」「空間的相互依存体系」「地域」という地理学の5大テーマは、経済の視点を地理学習に活用しようとする考えである。
 - ・「地域」は、過去、現在、未来を見通す観点であり、
「どのような地域にすべきか」を意識している

「さくらんぼ狩り」を深める ～第六次産業～



接客担当との会話

『いつもこんなに行列ができるのですか』

「今日はまだ少ないほうで、2時間待ちのときもあります」

『私が食べているシフォンケーキは、この牧場の鶏が生んだものですか』

「朝早く生んだ卵なので新鮮ですよ。1個100円もするのですが、全国からの注文があります」

『スーパーで買うと、一箱くらいの価格ですね』

「モーニングでは、卵かけご飯がメニューにありますので、またお越しください」

『ところで、あなたは大阪とか都会からバイトに来ているのですか？』

「私は鳥取市出身です。この新聞をお渡ししますのでお読みください。2015年に全国47都道府県からの来客を達成しました」

「日本経済新聞」2014年1月14日

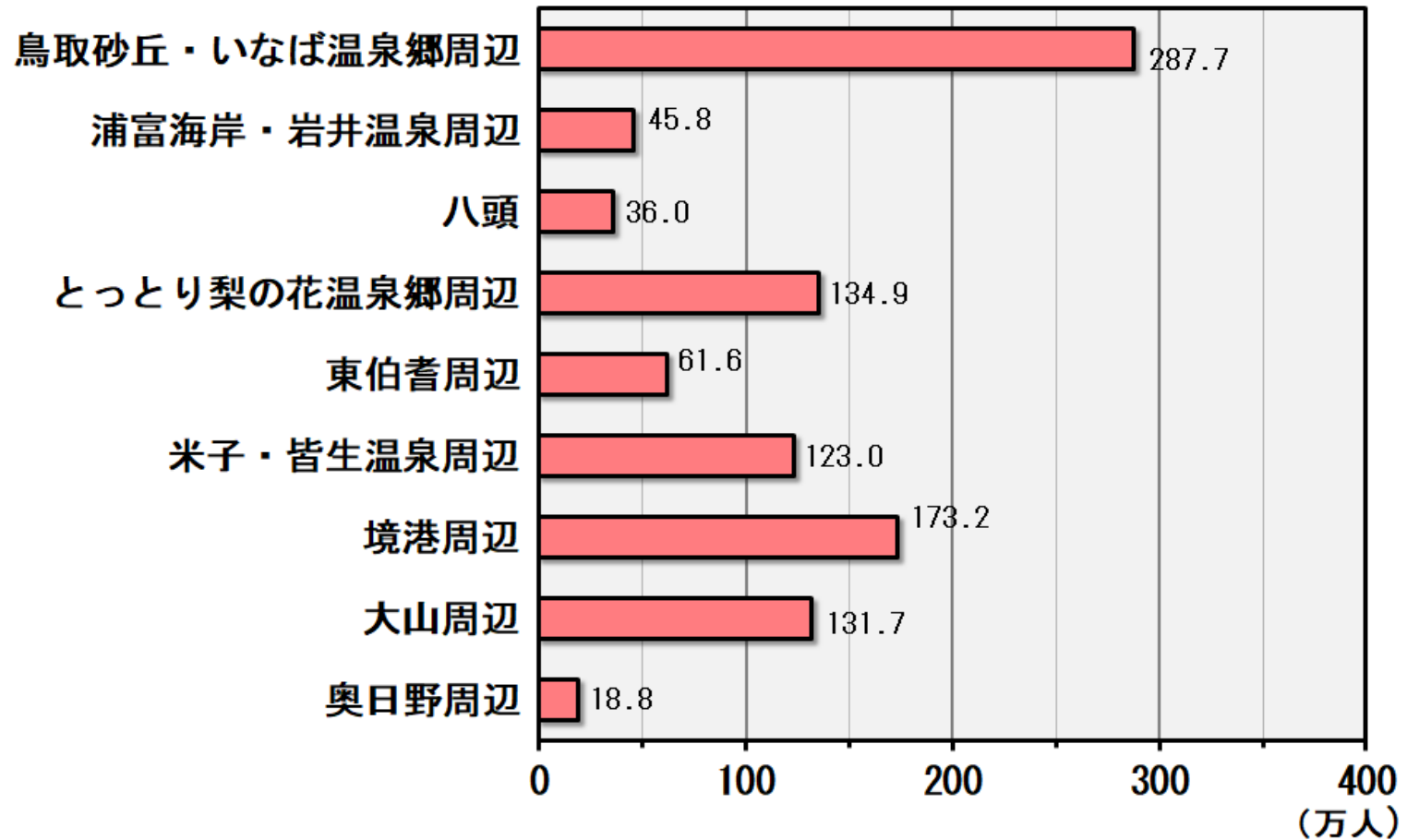
「自然の恵みあふれる鳥取県大江の郷」

「平飼い鶏の朝採れ“絶品”たまごかけご飯」

『1個100円卵』に、全国から行列。その秘密は“鮮度”と“栄養成分”」

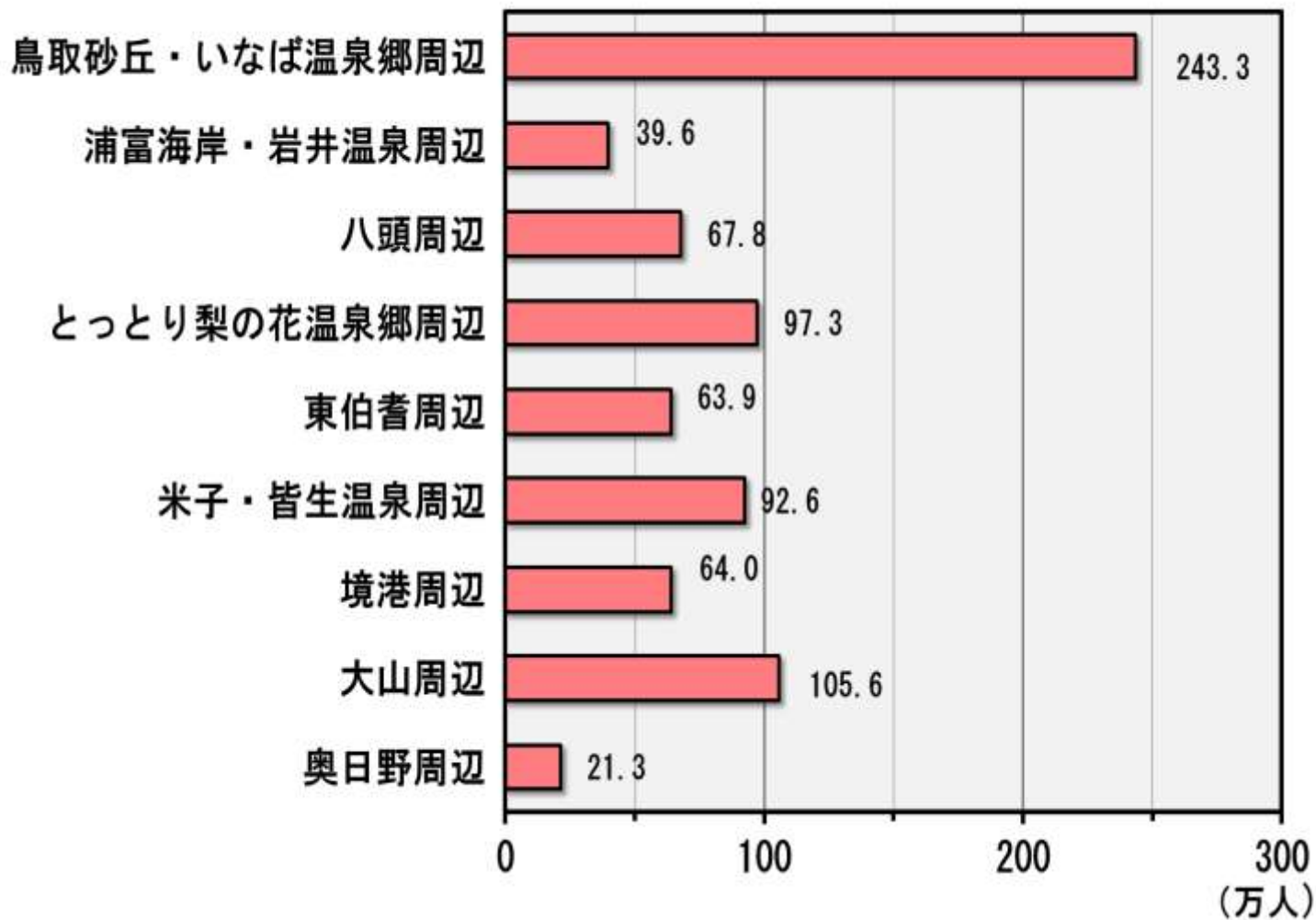
2016年観光者数(観光課)

平成28年の地域別観光入込客数(実人数)



2022年観光者数(観光課)

令和4年の地域別観光入込客数(実人数)



地理学の5大テーマ

(1) 位置や分布

・それはどこに位置するのか(規則性)それはどのように分布するのか？

(2) 場所(地形、土壌、気候、水など)

・その場所の地域的特色を明らかにする。他の場所との比較の中で、そうした事象はそこでしか見られないのかという地方的特殊性と、他地域にも見られるのかという一般的特殊性。

(3) 人間と自然との相互依存関係

・そこでの生活は、周囲の自然環境からどのような影響を受けているか？人々は自然環境に働きかけ、自然を改変するなど影響を与える

(4) 空間的相互依存作用(運輸、通信)

・そこは、それ以外の場所とどのような関係をもっているのか

(5) 地域

・その地域はどのような特徴があるか他の地域とどこが異なっているか
・変容してきた、変容していく地域も視野に入れ、過去、現在、将来を見返す視点

熊本平野と八代平野



二つの平野の作られ方

熊本平野—阿蘇山から白川、緑川

八代平野—三大急流の球磨川

熊本平野と阿蘇山

～農業生産が多いワケ～

米作 熊本産の「ヒノヒカリ」が美味しい米1位
熊本県の農業生産額は全国6位である。

- ・「場所」(気候) 三方を山に囲まれている
→夏と冬の気温差や一日の寒暖差が大きい
- ・「場所」(水、地形) 阿蘇山から流れる川
→火山性堆積物で、上層は黒色ローム、赤土、下部は軽石、火山礫などから豊富な栄養から成る。

塩トマト

- ・寒暖差のある気温や干拓地なので土壌の中に塩分が多く、果実まで水分が行き渡らなく、大きくはならないが、味の濃い甘いトマトに
- ・普通のトマトー通年流通、露地物の旬は6～8月頃となっている
- ・塩トマトは冬春トマトの一種であり、12～5月に流通→端境期なので高価

「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」

地形、土壌、気候、水、植生などが農業に与える影響について考察する。また、火山である阿蘇山、急流の球磨川から災害などのマイナスの影響をうけつつ、人間は、それに対応し働きかけ改変することにより相互依存を築いている。

(人間と自然環境との相互依存関係)

地理的事象を経済・歴史の視点で深める アルゼンチン経済の低落

20世紀初頭 世界5位の経済力



現在 GNP 世界23位

一人あたり 世界65位

母を訪ねて三千里

マルコはどここの国へ？

<ペアワーク>映像やあらすじからマルコはどここの国に母を探しに行ったのか？

- ・三千里
- 船旅
- 出稼ぎ
- 言葉
- 草原

移民の時代

<考えよう>マルコのお母さんは、なぜアルゼンチンに働きにいったのだろう

世界でベスト5に入る経済大国

フランスやドイツに匹敵する経済水準

ヨーロッパやアメリカ合衆国からの投資も集中

首都ブエノスアイレスは「南米のパリ」

マルコはお母さんに会うまで何年かかったのかな？ 2年

蒸気船

*産業革命は「移民の時代」でもあった。人口密度が高いヨーロッパで賃金があまり上昇しなかったのに対し、人口密度が低い新大陸では賃金が増えやすい傾向があった。

アルゼンチンの農業 ～「位置」「場所」から考察～

＜考えよう＞アルゼンチンは現在、小麦の生産量は世界12位、牛肉は5位です。アルゼンチンの気候は農業に適しているか？

- 温暖湿潤気候と降水量がやや多いステップ気候
 - パンパと呼ばれる草原
- * 降水量が多く、草原もあるってことから農業や畜産が盛んである

南半球という位置

＜グループ討議＞南半球という位置についてメリット、デメリットを考える

【メリット】北半球とは「端境期」にあり、高価格で輸出できる

【デメリット】輸出するときに「赤道」を通らないといけなないので腐敗する可能性がある

技術革新と経済成長

「人間と自然環境との相互依存関係」

赤道を通る牛肉など腐りやすい

→ 1870年にフランスで

冷凍船

アルゼンチン経済の低迷

<グループ討議>なぜアルゼンチン経済は低迷したのか？次のキーワードから考えよう

1914年

第一次世界大戦 パナマ運河

・戦争によりヨーロッパ諸国の投資が減ったことと、貿易の縮小

・北アメリカに位置するカナダ、アメリカ、メキシコの物流が便利になる

地理に歴史・政治経済の視点を

<考えよう> 1960年代後半から貿易自由化への転換によりアルゼンチン工業が打撃を受ける。なぜか

- ・アジア諸国からの工業製品の輸出

- ・インフレーション赤字を埋めるために通貨量を増やしインフレが進行する。1980年代は年平均150%に達した。

- ・フォークランド戦争→南大西洋洋上の英領フォークランド諸島の軍事占領→軍事費の増大

経済環境の変化と政治経済政策の失敗によりアルゼンチン経済は低迷した。

地理的考察では困難な事象

東京一極集中（教師からの提起）

<インフラ> 「道路、鉄道など交通機関が整備されている」 「上下水道、電力が整備されている」

<労働> 「いろいろな個性を持った人がいる」
「会社に合った人を雇用できる」

<消費> 「人口が多いので消費が多様である」
「人口が少ない地域では難しい商品を販売できる」

<機会費用> 「交通通信費が安い」 「取引相手を見つける時間を節約できる」 「企業間の距離が短く、取引費用の節約できる」

<外部不経済> 「渋滞」 「ゴミ」 「二酸化炭素排出」

ジグソー法による話し合い

＜インフラ＞「道が整備され移動しやすい」「物や情報が素早く手に入るので便利」「中央官庁があるため、行政サービスが受けやすい」

＜労働＞「最低賃金が高く、多くの働く人が集まる」「就職する選択肢が多い」「企業は人口が多いので能力の高い人を見つけられる」

＜消費＞「いろいろなサービスがある」「ビッグサイズの服でも売れる」「マイナー料理でももうかる」「スポーツクラブも人口が多いので維持できる」「映画館、博物館などを作っても経営が成り立つ」

＜機会費用＞「地方では経験できないことを経験できる」「華やかなイメージ」「いろいろな施設やサービスがある」「会社どうしの情報交換や取引がしやすい」

＜外部不経済＞「二酸化炭素の排出、ヒートアイランド現象など、地球温暖化の原因になる」「犯罪が多くなる」「物価が上がる」「一つの混乱がおこると、大混乱につながる」「地方の過疎化が深刻化」

経済の視点から都市化を考察

教師として知っておくこと

- 「比較優位」 許認可を得るのに官公庁が近い
- 「規模の経済」 大量生産が可能になり効率的
- 「集積の経済」 シリコンバレー等、空間的近接性
- 「労働の多様性」 個性や特性のある人々が多い
- 「消費の多様性」 特殊な商品やサービスにも需要
- 「機会費用の損失」 全国で年間38億時間
- 「外部不経済」 ゴミや二酸化炭素の排出

結語

- ・地理授業では、「地理的見方・考え
方」を育て、「地理的諸課題」を解決す
る資質・能力を育成するという固有の
役割がある
- ・経済の視点を加味することで、地理
的事象が深まる事例がある
- ・地理的思考では分析できない事象も
あり、経済的見方・考え方から考察

参考文献

山崎圭一「世界史と地理を同時に学べ」
(sbcreative)

日本経済新聞社編「身近な疑問が解ける経済学」(日経文庫)

北村明裕「中学社会アクティブラーニング授業モデル」明治図書